

あすからの天気

11日17時

	13(金)	14(土)	15(日)	16(月)	17(火)	18(水)
札幌	1	2	7	5	1	3
仙台	6	6	11	7	3	5
青森	2	2	9	2	3	2
盛岡	5	2	1	4	5	4
仙台	9	0	13	10	1	9
秋田	7	2	8	11	2	6
山形	2	7	11	13	8	7
福島	10	14	16	9	7	10
水戸	12	15	16	14	10	11
宇都宮	12	14	16	14	10	11
前橋	13	15	16	13	10	12
熊谷	14	16	17	16	11	12
銚子	12	15	16	15	11	13
東京	13	15	17	15	11	12
横浜	13	15	16	15	10	11
新潟	9	12	13	10	7	8
富山	11	15	17	11	8	10
金沢	10	14	16	11	8	9
福井	10	14	15	10	8	8
甲府	14	15	16	16	11	12
長野	9	11	14	7	6	7
岐阜	13	15	14	13	12	12
静岡	15	16	15	16	12	13
名古屋	13	16	15	14	12	12
津	13	13	12	13	10	11
彦根	10	12	12	9	8	9
京都	13	16	16	12	11	12
大阪	12	15	16	12	11	12
神戸	11	14	15	12	11	12
奈良	12	16	16	12	11	12
和歌山	13	16	16	13	12	13
鳥取	12	16	16	11	10	10
松江	13	16	15	12	10	10
岡山	14	15	15	13	11	13
広島	14	14	15	13	11	13
下関	15	14	15	13	12	12
徳島	14	14	15	13	12	12
高松	14	14	15	13	12	12
高知	17	16	17	14	15	15
福岡	16	14	17	14	13	13
佐賀	15	15	17	14	13	13
長崎	16	16	17	15	14	14
熊本	16	16	17	15	14	14
大分	17	17	18	16	15	16
宮崎	17	17	18	16	15	16
鹿児島	17	17	18	16	15	16
那覇	22	23	24	23	21	20

のち時々予想気温上段:最高 下段:最低

こだわりポイント

輪作で安定生産

乾田直播や子実用トウモロコシを組み合わせ、地区ごとに作付けし効率的に管理

働きやすい職場づくり

GAPによる作業標準化やルール作り、評価制度に基づく従業員の労務管理

茨城県境町で水田70秒を管理するクローバー・ファームは、米麦大豆に子実用トウモロコシを組み合わせた5年輪作体系を構築し、高い土地利用効率と各品目の安定生産を両立させている。地域の用水利用を考慮した乾田直播(ちよくは)の導入や、雑草害軽減のための子実用トウモロコシ作付けなど、地域に合った体系を目指している。農業生産工程管理(GAP)によ

私の経営

茨城県境町・水稻、麦、大豆など

クローバー・ファーム

5年輪作 全体収量増へ

麦の生育を確認する高橋さん(茨城県境町で)



経営概況

▷労働力=本人、妻、従業員5人、パート1人▷経営規模=水稻40.7畝、麦31.9畝、大豆7.7畝、子実用トウモロコシ23.4畝▷売上高=9600万円(25年6月期)

基本的な5年輪作体系は、1年目が大麦から子実用トウモロコシ、2年目が小麦から子実用トウモロコシ、3年目が小麦から大豆、4、5年目はいずれも乾田直播で水稻を栽培し、区画ごとに管理する。同社は「作物が混在していると管理しにくい。(排水性など)圃場はこうした性質に合わせるのではなく、地区で区切って作付けした方が効率を上げられる」と話す。水稻の乾田直播は、輪作体系だと周辺の水田と田植え時期がずれるため、用水確保の心配がいらぬ方法として導入した。畑作品目メインで回していくにも土壌の特性を維持しやすい。子実用トウモロコシは、自社で乾燥させ近隣の養豚農家に販売している。茎葉や残さすき込むことで土壌改善効果も実感している。大豆作で悩まされてきた帰化アサガオ類は、子実用トウモロコシを2、3年作り続ける間に発生量を抑えられるという利点もある。輪作体系を自由に組めるのは、自社で乾燥・出荷調製設備を持つことが大きいという。今後さらに管理面積拡大が予想される中で、「(輪作品目に対応できる)設備があれば、次世代にも継承していける」(高橋さん)と考えている。農場では、玄米でJGAPの団体認証も取得している。販売面では付加価値を高めるため、従業員向けのルール作りでも役立っているという。労務管理では、他の農業法人を参考に従業員評価に基づく給与体系を取り入れた。習得技術や経験など昇給基準を明文化して、働き続けやすい職場環境を整えている。茨城パン小麦栽培研究会の会長を務め、地域での小麦の収量向上にも取り組む。高橋さんは「ブロックローテーションをさらに進め、収量も高めていく。小麦では10畝当たり600kgを目指す」と展望する。(徳安美沙都)

わなに害獣 LINEで通知



京都府福知山市は、鹿やイノシシなどの害獣がわなに入ったら地域住民にLINEで通知し、遠隔監視・捕獲できるシステムを福知山公立大学と試験運用している。通信費などの運用コストを低減。情報を地域住民にも共有してわなの日常管理に住民も関わることで、ハンターの負担を軽減する。地域ぐるみの害獣対策として成果を上げている。

京都府福知山市と 通信費5分の1に

折できる高度なもので、通信費が年15万円程度かかっていた。同大のシステムは機能を単純化し、通信費を年3万円ほどに抑えた。動物を検知してから通知が来るのでハンターの負担が軽くなり、捕獲数も増えた。以前は一頭も捕獲がなかった地区でも、システム導入後は毎年平均20頭以上捕獲している。LINE通知にしたことで農家以外からも目撃情報が寄せられるようになった。自らの情報で地域に役立つことで、住民の意識が向上したという。26年度からは地域の自己負担で管理する。地区の農事組合法人かわいの土佐祐司代表理事は「農業被害は減っている。住民のモチベーションが高まり、地域全体でわなを管理する体制ができる」と期待する。(木村泰之)

「AW5原則

日本養豚協会セ

日本養豚協会は、養豚のアニマルウェルフェア(AW)快適性に配慮した家畜の飼養管理をテーマにしたセミナーを東京都内で開いた。獣医師2人が登壇し、豚が快適に過ごせる環境づくりは、生産性向上や重要疾病対策などにつながることを説いた。エクシユタイン・スワイン・サービス(東京都世田谷区)の獣医師の宮下マリ氏は、「AWの5原則」として、家畜にとって①飢え・渇き②不快③痛み・負傷・病気④恐怖・抑圧がなく、⑤本来の行動が取れる——ことだと紹介。「豚が快適で健康に育つことが、つな

営農発電12事例

自然は、営農の実践の場。NPOで開いた体系的な表がある。のグリーポレー栽培の下でも、収量を上げた。同法人は「産は」

話

農業は、薬剤NTTNTT(埼玉)同社製のNの薬剤す部品オプシト」